

まちづくりミーティング要旨

1. 団体等の名称 うぬまの輪 にんじん会議
2. 日 時 平成29年9月19日(火) 19時00分~20時30分
3. 場 所 鵜沼福祉センター 集会室
4. 出席者 <参加団体>17名 <市>市長、介護保険課長
5. テーマ Discover わが街各務原

【参加者】 現在、認知症の方は免許返納をしなければいけない時代です。免許返納すると移動手段がなくなり、外出も減ってしまい、認知症をより深刻化させてしまいますので、お金のかからない通院や施設へ行く方法を何か考えるといいと思います。また、認知症は家族だけで支えられませんので、認知症の方を孤立させないためにも『向こう三軒両隣』の感覚を取り戻し、地域全体で面倒を見ていける町になってほしいです。

【参加者】 東海中央病院は急性期病院として、県総合などの高度急性期病院と地域医療との中間的な役割を担っています。また、平成28年9月から地域医療支援病院になっており、病院から7km圏、20分圏内の医療介護の現状を特に重視し、支援していきます。身寄りのない高齢者が増え、退院調整が増えておりますので、地域の医療・介護機関と情報共有など連携することで解決に向け進んでいきたいと思ひます。

【参加者】 外来で来られる方のほとんどが、ピンピンコロリを望まれています。一昔前とは違い、今は90歳を過ぎてても皆さんお元気でいらっしゃいます。施設は本当に最後に行くところで、それまでを地域で元気に暮らしていけるような社会ができればいいなと思ひますし、そのための仕組みを作るべきではないかと思ひます。こういう時代だからこそ、各務原市らしい福祉計画を打ち出して、細かい所にも気を配るようなアイデアを出して、市民の皆様を示すべきではないかと思ひます。

【参加者】 現在、私たちは24時間訪問介護を行っておりますが、それでも補いきれないという現状を考えると、今後は地域の方を巻き込んで支えていく必要があると思ひます。例えば、自治会において福祉係のようなものを設置してはどうでしょうか。そうすれば、地域住民が総活躍でき、活動に携わる高齢者の介護予防にもつながると思ひます。また、これから社会を支える子どもたちに授業や放課後の時間を活用し、地域の魅力を体験させる機会を作ることで、将来各務原に残る子どもが増え、医療・介護雇用にもつながることで、慢性的な介護職人材不足の解消になるのではないかと思ひます。

【参加者】 介護事業を行う中で、庭の草刈りや電球交換など、介護保険内では対応できない様々な問題にぶつかってきました。こういった問題を行政や社協、地域の活動に繋がって解決できればいいのですが、なかなか上手くいきません。そこで私たちは、こういったお困りごとを自費で請負うサービスを行うこととしました。このサービスを通じて地域ニーズを知り、それを行政や社協などに伝えていくことが必要なのではないかと思ひます。今後も様々な相談に対して、民間の相談窓口の1つとして活動していきたいと思ひます。

【参加者】 高齢者の免許返納により外出方法が失われた方に対して必要な事を考えました。まず、頭の体操や運転に必要な能力の維持のためのリハビリを継続すること。他には、高齢者が歩いて行ける距離にふれあい場所があるといいと思います。出張サロンのようにお話を聞いたりして、外出するきっかけを作ること。デイサービスなどで空いている送迎者を活用するなど、地域の新しい交通手段の創出が必要です。外出により地域へ出ていくことで、社会参加につながり、活動的な生活ができるだけでなく、介護予防や閉じこもり予防にもなるのではないかと思います。

【市長】 私は、映画の『3丁目の夕日』のような町が大好きで、そんな町にするためには、向こう三軒両隣のような地域の包括的なものが作り上げられることが非常に大事だと思います。現在は、コミュニティ・スクールにおいて、退職した方や知識・技能を持つ方に参加していただき、活力を持ちながら、子どもたちと触れ合うことで生きがいを持ち、自分たちも頑張っていると感じていただけるような事業を行っております。このように、地域の方々の力をお借りし、それを出し切ってもらえるような環境を整えることが非常に重要だと思います。本日参加のみなさんのような企業や事業所に加え、地域の力をお借りすることで3丁目の夕日のような社会につなげていきたいと思っています。また、団塊ジュニア世代を将来支えるのは、今の小学生や中学生の世代です。この子どもたちが、生まれ育った各務原市にいずれ戻ってきたい、と思ってもらえるようなコミュニティを感じてもらうことが重要です。市では、子どもたちにいろいろな体験ができるようなきっかけ作りをしていますが、そこで、高齢の方々とは接する機会が増えることで、いずれは「今度は支える番だ」と認識してもらえるような町をつくってきたいです。

【参加者】 足腰の弱いお年寄りにとって、ゴミ出しが一番の問題です。私の近所では、ゴミ出しが大変なお年寄りのために近くの方が代わりにやってあげることがあります。昔は、家にお年寄りがいて、子どもが小さいころから、人間は年を取るとどうなるかという姿を見て育ち、最後は死んでしまうんだということを体験できました。しかし、今は親と同居が減って、年寄りとは接する機会が減っているように感じます。そのせいで子どもも想像がつかないのだと思うので、幼稚園児や小学生と今の高齢者が触れ合う機会を増やしてほしいです。そうすると、自分も将来こうなるから、助けられる時は助けないといけない、と感じてくれると思います。

○参加者まとめのことは

今日の話聞いて、課題は地域にあるが、解決方法も地域にあるのだと感じました。私も団塊ジュニアなので、これから起こる事は、他人事ではなく自分にも必ず起こるのだと考えたいと思います。地域の力を出し切るとありましたが、本日は市役所や医療、介護事業所などから色々な方に集まっていたので、今後も私たちみんなが同じ方向を向き、お互いの理解を深め、協力することから初めていきたいなと感じました。

○市長まとめのことは

本日はお医者さんや介護職の方などいろいろな立場から非常に活発な議論をしていただきました。10年先20年先、さらにその先の各務原市の課題を検討していくための非常に貴重な意見を頂きました。行政だけではなく、医療・介護事業者や地域の力を合わせることで、3丁目の夕日のような町をつくれるのではないかと思います。その為にも、様々な立場の方々が集まってお話をするという機会を、これからも続けていきたいと思っています。